

平成 27 年 9 月 1 日

石狩市長 田岡 克介 様

石狩市男女共同参画推進委員会

委員長 阿部 包

第 3 次石狩市男女共同参画計画の策定について（提言）

平成 27 年 2 月 26 日付け石聴生第 763 号で依頼のありました標記の件について、男女共同参画に関する市民意識調査や男女間における暴力に関する市民調査、男女共同参画ワークショップなどを通して寄せられました多くの市民の意見を踏まえ、当委員会で慎重に審議を重ねました結果、下記のとおり取りまとめましたので提言いたします。

記

1. 審議における留意点

提言内容の審議にあたり、推進委員会が留意した点は下記の5点になります。

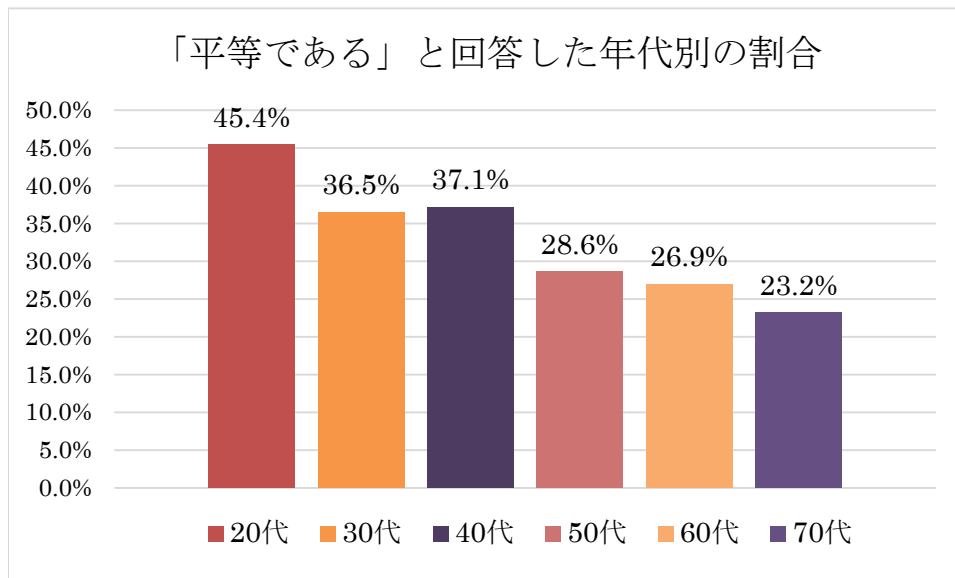
- （1）第2次計画をベースに、社会情勢の変化や国からの要請事項を踏まえ、石狩市の実情にあった施策を推進すること
- （2）効果的に施策を推進するため、国の次期計画（第4次）と方向性を共有すること
- （3）男女共同参画社会基本法の規定による市町村男女共同参画計画および配偶者暴力防止法の規定による市町村基本計画に位置づけること
- （4）市民参加手続き結果を反映させるなど、市民が必要と感じていることを踏まえること
- （5）第6次男女共同参画推進委員会からの意見、提案を踏まえること
 - ・第2次計画は項目を絞ってきたが、第3次計画も一層絞って項目数を減らし、実現可能な施策に集中できることを期待したい
 - ・男性に浸透させるため、男女共に参加したり、ターゲットにする企画や項目の検討をすること

2. 石狩市における男女共同参画の現状と課題

平成26年度に実施した男女共同参画に関する市民意識調査や男女間における暴力に関する市民調査から、以下に示すとおり現状と課題を確認しました。

（1）男女平等に対する意識

男女平等に関する意識について「平等である」と回答した年代別の割合は、20代が最も高く 45.4%、70代が最も低く 23.2%と、年代が上がるにつれ「平等である」と回答した割合が低くなる傾向にあります。

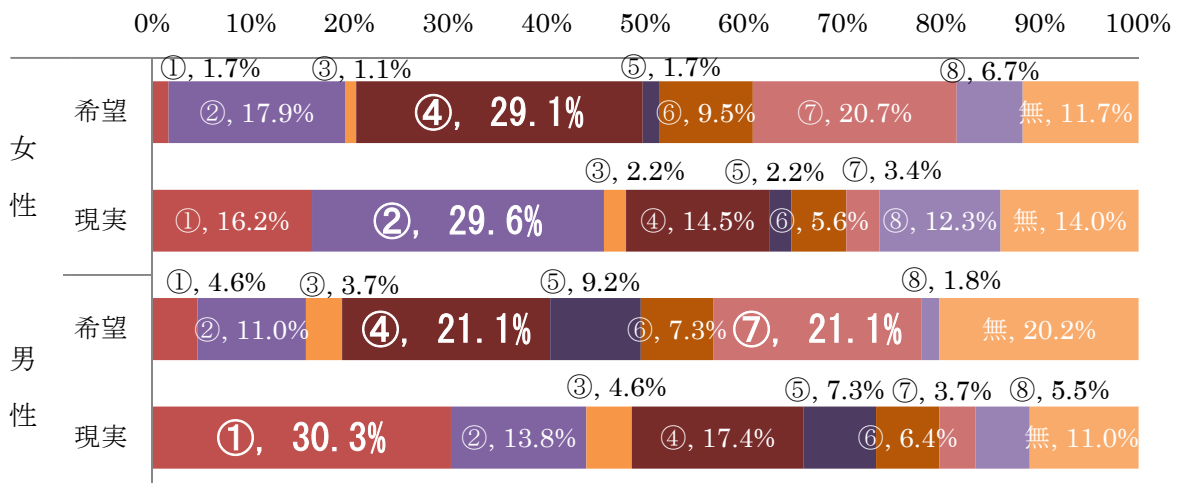


H26 男女共同参画に関する市民意識調査

最も高い20代でも45.4%と半数以下である結果を鑑みると、年代を問わず広く啓発することが必要であると考えますが、今後、地域社会全体で「男女共同参画社会」を推進していくためには、子どもの頃からの意識づくりが必要不可欠であるため、若年層に対する取り組みが優先すべき課題であると考えます。

(2) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

女性、男性とも「仕事と家庭生活をともに優先」することを希望していますが、現実には、女性が「家庭生活を優先」、男性が「仕事を優先」していて、女性も男性も希望と現実にギャップが生じていることが課題といえます。

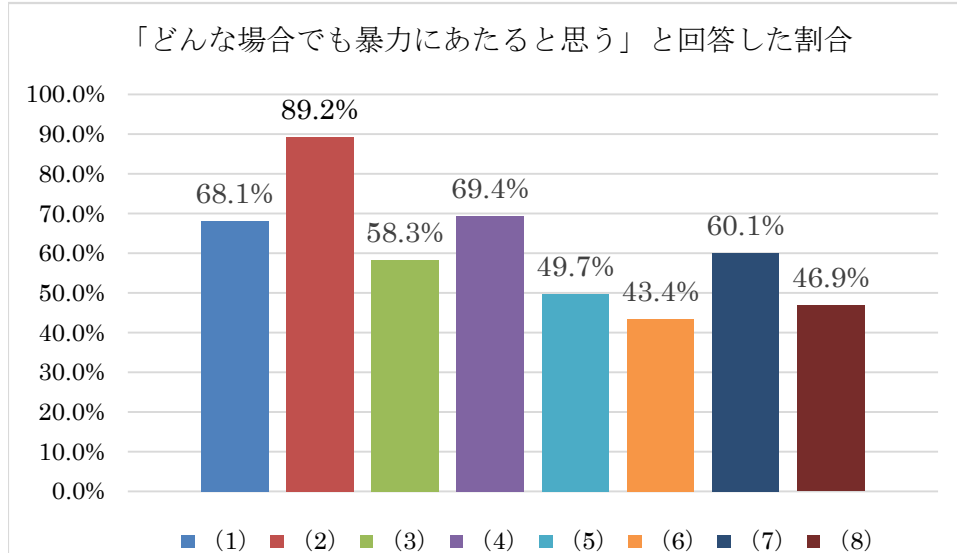


- ①「仕事」を優先
- ②「家庭生活」を優先
- ③「地域・個人の生活」を優先
- ④「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ⑤「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑥「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑧わからない
- 無 無回答

H26 男女共同参画に関する市民意識調査

(3) 女性に対する暴力 (DV)

ある一定の行為や行動が「暴力にあたると思う」と回答した割合を見てみると、身体的な暴力についての認識が約 70%以上と高い一方で、精神的な暴力についての認識は 50%以下と低い傾向にあります。



- (1) 平手で打つ
- (2) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる
- (3) なぐるふりをして、おどす
- (4) いやがっているのに性的な行為を強要する
- (5) 何を言っても長期間無視し続ける
- (6) 交友関係や電話を細かく監視する
- (7) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う
- (8) 大声でどなる

H26 男女間における暴力に関する市民調査

また、DV を受けた時に「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した割合は 51.6%と半数の人が相談していないこと、DV について「相談できる窓口を知っている」と回答した割合は 39.9%と半数以上の人が窓口を認識していないことが課題であると考えます。

3. 第3次計画で重点的に取り組む視点

石狩市における男女共同参画の現状と課題を受け、次の2点を重点的に取り組むよう提案します。

(1) 若年層への啓発について

地域社会全体で「男女共同参画社会」を推進していくためには、次世代を担う子ども達の意識づくりが必要不可欠であるため、子どもと保護者が一緒に男女共同参画の意識を学ぶことができる機会を設けること。

DV についての理解を促進する機会を設けること、あるいは DV に対する切れ目の無い支援を行うことなど、特に 30 代以下の若年層に対する取り組みを優先すべきと考えます。

(2) ワーク・ライフ・バランスの推進について

女性と男性両方が希望する「仕事と家庭生活をともに優先」するライフスタイルの実現のための手段として、女性が働きやすい環境を整備することや、男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加が考えられるため、共働き世帯などのさまざまなロールモデルの紹介、イクメンやカジダンなどの男性の意識が変わるきっかけづくりなどの取り組みを優先すべきと考えます

また、これら施策事業の推進には、個人や家庭への啓発のみではなく企業などへの啓発をあわせて実施すべきと考えます。

4. 成果指標の設定

多様性に富んだ活力ある社会の実現のためには、社会における女性の参画が重要であるため、次の2点を指標とすることを提案します。

(1) 市の審議会等委員に占める女性の割合

(2) 市の管理・監督職（主査職以上）に占める女性の割合

5. 計画の推進

地域社会全体で「男女共同参画社会」を総合的かつ効果的に推進していくためには、市民や、企業、関係団体の理解や協力、参画がなければ実現できないため、市ホームページや広報などを活用し、計画についての理解促進を図ることが必要だと考えます。

また、計画の進捗状況について、市ホームページなどにより公表することで、情報共有を図り、地域と行政が一体となった連携のもと計画を推進することが必要だと考えます。

◇石狩市男女共同参画推進委員会委員名簿（第7次）

役職	氏 名	選任区分	所属・肩書
委員長	阿部 包	学識経験者	藤女子大学人間生活学部教授
副委員長	高田 良次	学識経験者	前札幌人権擁護委員連合会 男女共同参画社会推進委員会副委員長
委員	岩田 眞智子	学識経験者	元札幌市男女共同参画センター事業係長
委員	安部 紀江	学識経験者	石狩市校長会
委員	佐藤 弘美	学識経験者	北海道石狩南高等学校養護教諭
委員	荒川 よし子	団体推薦者	北海道家庭生活カウンセラークラブ石狩地区
委員	築田 純子	団体推薦者	元石狩市女性団体連絡協議会会員
委員	阿部 文子	一般公募	
委員	草島 猛	一般公募	
委員	工藤 美和子	一般公募	
委員	袴田 律子	一般公募	
委員	若林 厚一郎	一般公募	

※選出区分ごとに五十音順で掲載しています